

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

開会年月日時刻	令和3年11月19日（金） 午後3時00分
閉会年月日時刻	令和3年11月19日（金） 午後4時45分
会議の場所	向井千秋記念子ども科学館 会議室
会議次第	
<ol style="list-style-type: none"><li>1 開会</li><li>2 市長挨拶</li><li>3 協議・調整事項<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 放課後子ども教室の現状と課題について</li><li>(2) スポーツ少年団活動の現状と課題について</li></ol></li><li>4 その他</li><li>5 閉会</li></ol>	

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>出席者</p>	<table> <tr> <td>館林市長</td> <td>多田 善洋</td> </tr> <tr> <td>館林市教育委員会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  教育長</td> <td>小野 定</td> </tr> <tr> <td>  教育長職務代理者</td> <td>金子 千秋</td> </tr> <tr> <td>  委員</td> <td>堀口 哲哉</td> </tr> <tr> <td>  委員</td> <td>木戸 浩之</td> </tr> <tr> <td>  委員</td> <td>猪熊 妙子</td> </tr> </table>	館林市長	多田 善洋	館林市教育委員会		教育長	小野 定	教育長職務代理者	金子 千秋	委員	堀口 哲哉	委員	木戸 浩之	委員	猪熊 妙子														
館林市長	多田 善洋																												
館林市教育委員会																													
教育長	小野 定																												
教育長職務代理者	金子 千秋																												
委員	堀口 哲哉																												
委員	木戸 浩之																												
委員	猪熊 妙子																												
<p>説明等の ため出席 した者</p>	<table> <tr> <td>(事務局)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>  政策企画部長</td> <td>栗原 誠</td> </tr> <tr> <td>  教育次長</td> <td>青木 伸行</td> </tr> <tr> <td>  秘書課長</td> <td>中村 豊</td> </tr> <tr> <td>  企画課長</td> <td>田口 真樹</td> </tr> <tr> <td>  教育総務課長兼学校給食センター所長</td> <td>武井 邦晴</td> </tr> <tr> <td>  生涯学習課長</td> <td>岡戸 千絵</td> </tr> <tr> <td>  学校教育課長</td> <td>小林 秀夫</td> </tr> <tr> <td>  文化振興課長</td> <td>戸叶 俊文</td> </tr> <tr> <td>  スポーツ振興課長</td> <td>加藤 雅央</td> </tr> <tr> <td>  向井千秋記念子ども科学館長</td> <td>石崎 治</td> </tr> <tr> <td>  図書館長</td> <td>黒澤 文隆</td> </tr> <tr> <td>  総括係長</td> <td>折原 嘉和</td> </tr> <tr> <td>  書記</td> <td>打木 洋輔</td> </tr> </table>	(事務局)		政策企画部長	栗原 誠	教育次長	青木 伸行	秘書課長	中村 豊	企画課長	田口 真樹	教育総務課長兼学校給食センター所長	武井 邦晴	生涯学習課長	岡戸 千絵	学校教育課長	小林 秀夫	文化振興課長	戸叶 俊文	スポーツ振興課長	加藤 雅央	向井千秋記念子ども科学館長	石崎 治	図書館長	黒澤 文隆	総括係長	折原 嘉和	書記	打木 洋輔
(事務局)																													
政策企画部長	栗原 誠																												
教育次長	青木 伸行																												
秘書課長	中村 豊																												
企画課長	田口 真樹																												
教育総務課長兼学校給食センター所長	武井 邦晴																												
生涯学習課長	岡戸 千絵																												
学校教育課長	小林 秀夫																												
文化振興課長	戸叶 俊文																												
スポーツ振興課長	加藤 雅央																												
向井千秋記念子ども科学館長	石崎 治																												
図書館長	黒澤 文隆																												
総括係長	折原 嘉和																												
書記	打木 洋輔																												

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長	皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまより令和3年度第1回館林市総合教育会議を開会いたします。 <p style="text-align: right;">(午後3時00分)</p>
教育総務課長	それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。はじめに、会議の招集者であります多田市長よりご挨拶をお願いいたします。
市長	皆さんこんにちは。本日は教育長をはじめ、教育委員の皆様、お忙しい中、お集まりをいただきまして心から感謝を申し上げます。本日の総合教育会議は、市長就任以来、私にとりまして最初の会議ということでございます。 今回、協議・調整をさせていただく事項は、今年度より開設をさせていただきました放課後子ども教室と、少子化が進む中、課題を抱えるスポーツ少年団活動についてでございます。 核家族化や親の働き方の多様化、SNSの普及などによりまして、子どもたちを取り巻く環境は様変わりしているものというふうに思っております。子育てに不安を抱える家庭も増えていると伺っております。放課後子ども教室につきましては、子育て環境の充実に役立てるものというふうに期待をしているところでもございます。また、スポーツにつきましては、健康づくりや体力づくりはもとより、人づくりの面でも重要な役割を担っております。幼少期よりスポーツに親しむ、そして仲間と競い、励まし合いながら、切磋琢磨する中、健やかな体と豊かな心が育てられます。スポーツ少年団にはこれらの力を兼ね備えた子どもたちを育む重要な役割があるというふうに認識をいたしております。 本日の会議では、少子化が進む中、現状と課題を共有しながら、この二つのテーマについて教育委員の皆様と一緒に考えて考える良い機会にしたいというふうに考えておる次第でございます。 結びに、教育委員の皆様がたにおかれましては、忌憚のないご意見をいただきながら、本日の総合教育会議が子どもたちの健全育成に

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>つながり、実りあるものとなるように、皆様のご協力を心からお願い申し上げます。本日はよろしくどうぞお願い申し上げます。</p>
教育総務課長	<p>ありがとうございました。それでは会議に入りたいと思います。ここからは、館林市総合教育会議運営要綱第三条の規定に従いまして、多田市長に議長を務めていただきたいと思います。議事の進行につき、よろしくお願いたします。</p>
市長	<p>それでは、これより議長を務めさせていただきます。お手元の次第をご覧くださいと思います。3 協議・調整事項に入ります。はじめに、(1)放課後子ども教室の現状と課題についてを議題といたします。これにつきまして、協議・調整事項とした理由を教育委員会事務局から説明をお願いいたします。</p>
教育次長	<p>教育次長の青木です。それでは今回、協議・調整事項としました理由について述べさせていただきます。</p> <p>本市教育委員会では、子どもたちが心豊かで、健やかに育まれる環境づくりを推進するため、本年度より、三野谷公民館において放課後子ども教室を開設いたしました。放課後子ども教室では、子どもたちが、放課後等に勉強やスポーツ、文化活動や地域の人たちとの交流活動を行っておりまして、安全安心な環境で、学校教育では経験できない学びを体験できる貴重な居場所となっております。</p> <p>しかしながら、本事業は、本年度より本格的に開始したものでございまして、これから事業を定着させ、より効果の高いものにしていくためには、関係各所の十分なお理解とご協力をいただく必要があるなど、様々な課題があるものと思います。</p> <p>放課後子ども教室は、令和4年度には西公民館、十小地区で開設を予定しております。すでに開設されている三野谷公民館では、活動の効果や今後の課題なども見えてきておりますので、本日はそれら</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>を踏まえまして、公民館と学校、地域の連携によって、安全安心な子どもたちの居場所づくりを推進していくために、皆様からご意見を頂戴し、今後の参考とさせていただきたいと思ひまして議題とさせていただきます。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。次に、関連する資料が用意されていますので、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>(1)放課後子ども教室の現状と課題について (別紙資料(1)に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、これよりご質問やご意見をお伺いしたいと思っております。最初に、金子委員お願いします。</p>
<p>金子委員</p>	<p>平日の放課後から始めるってことですがけれども、一年生から六年生は公民館に集まってくる時間帯は違ってきますよね。その時に、一年生から六年生まで集まって、これらの事業がスタートできる時間帯と言うか、大体どのぐらいからスタートできるのですか。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>大体ですね、高学年の子が公民館にやってくる時間帯は、3時半から4時ぐらいになっていますので、大体4時から全員で活動するような形です。ですので、全員で体験活動とか遊びができるのは1時間ぐらいです。</p>
<p>金子委員</p>	<p>予定表を見ますと、大体月曜日が多いですけれども、月曜日っていうのはどうしても子どもたちが一斉下校とかで、時間的には帰りが同じようになるので、その時間を選んでいるのかなとも思いました。あとちょっと感想も言わせていただいてもよろしいですか。実際にこうやって活動が始まっていて、資料などを見させていただいていると、子どもたちの楽しい様子などがすごく伝わってくるんですけれど</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

ども、ただこの活動を長く続けていく上で、地域の推進員さんたちにお世話になるような形になると思うんですけども、この推進員さんたちは、これだけの活動をしているわけではなくて、地域のお仕事などもいろいろとさせていただいているわけですね。そうになると、時間的に推進員さんたちの仕事が大分増えてくるのかなって思います。多分この活動をするにあたっては、やっぱり子どもさんに教えているわけですから、何回か打ち合わせをするだとか、そういうのが出てくると思うんですね。そうすると推進員さんたちもちょっと負担になってくるのかなって思うのと、あと、いつもこの時間帯、4時から5時っていう時間帯っていうのはなかなかつくりにくい時間帯であって、時間がある人たちで、いつも同じような方たちで回すような形にもなるのかなって、それもちょっと心配しております。

それと開設日時ですか、開設日時は原則として学校で授業がない日や給食がないときは実施しないとなっているんですけども、事業目的の中には、放課後など子どもたちが安全安心にできる場所を設けるとなっているんですね。そうなりますと、仕事をしている保護者、そして家族の方が、子どもの時間に合わせられないということも、どうしても家で面倒見られない、いろんな事情で子どもの時間に都合を合わせられない時ってあると思うんですね。親の立場からすると、そんなときこそ子ども教室で安心安全なところで、子どもたちを見ていただければというような希望も出てくるのではないかと個人的には思っています。以上です。

生涯学習課長

最初の活動時間の関係で、活動推進委員さんには、この事業を始めるにあたりまして、こういう事業ですということでご理解をいただいたところがございます。その上で、推進員さんにももちろんお時間があれば参画していただきたい旨、お話もさせていただきました上で、推進員さんも金子委員さんがお話になられたようにお忙しい方ばかりですから、できればこういう事業に対してやってくれるで

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

あろう人材を探していただきたいというお願いもさせていただいた次第でございます。もし関わっていただける方がいらっしゃいましたら教えてください、ということでございます。それに加えて、ボランティア募集という形でも地域の皆様に流させていただいております。

ただやはり、活動推進員さんも忙しい中で、その人材を集めてくるってというのはなかなか難しいでしょうし、ボランティアを一概にチラシとかで募集をしたとしてもあまり集まらないという状況も続いているのが課題でありまして、今後は、先ほども申し上げましたが、人材の確保というところが一番重要なところかなというふうに考えているところでございます。

それと開設の日時でございますけれども、おっしゃる通り、学校のない日ですとか給食がない日に、一番は安全安心な場所として公民館、放課後子ども教室で過ごしていただくというのが理想なのかもしれないのですが、こちらについては、今まだ始まったばかりなので調整不足ではあるんですけれども、先ほどの人材の確保につながっていくんですけれども、そういった方々、スタッフの方々が見つければ、学校の授業がない日や給食がない日に開設するというのも可能になってくるのかなというふうには考えているところでございます。

金子委員

分かりました。ありがとうございました。

市長

次に、堀口委員お願いします。

堀口委員

事業自体は始まったばかりで、いろいろな内容で子どもたちに対してレクリエーションなどを行っているということなんですが、できれば、子どもたちにアンケートをとってどんな遊びをしたいかっていうのを聞いた上で、それを実施していただくのも、自主性につながるのかなというふうに思いますので、ぜひまだ始まったばかりで

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長	すので、もう少し時間が経ったらそういった形でやっていただけたらありがたいなと思います。
市長	要望ということでよろしいですか。
堀口委員	はい。よろしくをお願いします。
市長	では、次に猪熊委員をお願いします。
猪熊委員	まず質問なのですが、子どもたちのこの写真を見るといろんなことをやってとても楽しそうなんですけれども、この説明の最初のところで、学校ではできない学びの体験ができるというお話がありましたけれど、学校ではできない学びとしてどのようなことを今とらえていらっしゃるのか教えていただきたいと思います。
生涯学習課長	学校でもたくさんの学びがあろうかと思いますが、やはり地域でやることが重要である学びもあるというふうにとらえておきまして、先ほどの、例えばスポーツ吹き矢ですとか、卓球ですとか、地域の大人の方とつながりながら、社会性ですとかそういったものを育んでいく、学んでいく、大人の方とお付き合いしていく、あと地域の方の名前、顔を知っていく、そういったことも社会性につながったりですとか、本人の子どもたちの成長につながっていく学びであるかなというふうにご考えているところでございます。 できるだけ、先ほどご紹介しましたスポーツ吹き矢や卓球など公民館で活動している団体さんにも参画いただいて、事業を実施していきたいと思っているのですが、できるだけ多くこういった内容のものを子どもたちの希望も聞いていきますけれども、その公民館の活動団体がやっているもので子どもたちにもできそうなものに関して、一緒にやっていけるような内容に事業をしていければというふうにご考えているところでもございます。



令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

猪熊委員

ありがとうございます。地域の方、大人の方と関わるっていうこととなると、七小もコミュニティ・スクールをスタートさせてありますよね。やっぱりいろんな場面で地域の方が入ってくださって、触れ合う機会というのを多く持っていると思うのですが、そのコミュニティ・スクールでも、地域の方と関わって、それから放課後の方でも関わっている、その辺がうまく別物じゃなくて、つながっていきけるようにするというのが一つ感想としてあります。

それから、そこに関わってくると、先ほど金子委員さんがおっしゃっていたように、区長さんが子どもたちの世話をしている写真がありましたけども、区長さんはコミュニティ・スクールの方に関わっていらっしゃる、ここにも関わっていらっしゃる、何か同じ人が結構負担しているのかなと思います。なかなかコミュニティ・スクールをスタートさせて、人を広げていくというのはすごく難しいというお話を聞いていますので、人材の確保が、大きなことになるのかなと思います。特にこういういろんな活動を考え出して、その準備をして、子どもに教えるということは、本当に時間の要ることですので、まずその公民館活動とつなげられるような中身であるならば助かるんですけど、そうでない場合には、ちょっと大変な部分があるのかなというふうに想像します。

もう一つは、子どもを対象、子どもを相手にしているということは、何かあったときの、安心安全を確保するための不手際があってはならないということがありますよね。そうしますと、誰でもいいというわけにはいかない。参加してくださった方が、子どもたちを安全に対応できるような力を持っていなきゃならない。そうすると、またここで人選をする上でネックというのも出てくるんですけど、研修会等を定期的に行うことでそういう意識を育んでいくこと、大人に対してしていくことが大切かなと思います。せっかく厚意を持ってきてくださっても、子どもが目の前で何かやってけがをしたとなると、私の責任かなって考えちゃうと、とても次につながっていか

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

生涯学習課長	<p>ないので、起きないうちに手を打っておくことが大事かなというふうに思いました。以上です。</p> <p>ありがとうございました。先ほども公民館の利用団体の方にご指導いただくというお話をさせていただきましたけれども、また、自分たちが利用している日以外に、子どもたちに関わっていただくということは、大変なご負担にもなるというふうに考えますので、今後は例えば、利用団体さんがちょうどその日にやられているときに、もちろんご理解、ご協力をいただいた上でのお話なのですが、そこに子どもたちがちょっと見学をさせていただいたり、お邪魔をさせていただいたり、少し体験をさせていただくような、そんなプログラムなども考えていければ、あまりご負担にならないような形で、事業ができればというふうにも、少し考えていかなければならないというふうに委員のお話で少し感じました。</p> <p>それからスタッフの方もしっかりと、やはりお子様をお預かりして、短い時間かもしれませんが、お預かりしているということをお肝に銘じまして、しっかり研修を積んでまいりたいと考えます。以上でございます。</p>
市長	<p>では、次に木戸委員をお願いします。</p>
木戸委員	<p>他の自治体では、活動している頻度っていうんですかね、週1回ないし週2回3回というところなんですけども、館林市においては月におおむね2回という形になってはいますが、先ほどから話に出ているように人材の確保というのが一つ大きなポイントだと思うんですが、この頻度というのをもう少し増やすというか、週1回ぐらいのものにしていただける、もしくは月曜日固定ではなくて他の曜日というのも選べるようにしていただくと、月曜日では参加できないけど、これだったらできるのになあという方の参加も促すことはできるかなというふうに思います。</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

生涯学習課長	<p>それと、今後、令和7年度までに6ヶ所開設しようというところなんですけれども、4年度に関しては西公民館、十小地区でということなんです、差し支えなければ、もし今検討されているというか、土台に上がっているというか、そういった地域がもしありましたら、教えてくれるとありがたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。まず、他の自治体がやはり週1回くらいやられているということで、もし館林市でもですね、先ほど来課題にあげております人材の確保という部分で、もしそちらの方が可能になるならば、できるだけ地域の方、それから子どもたちの要望にこたえていくような形をとっていければというふうには考えているところでございます。先ほどもお話ししましたが、人材の確保という部分におきましては、やはり公民館の職員がですね、やはり地域に、活動団体も含め、地域に精通しているという部分もありますので、できるだけ様々な機会に放課後子ども教室のことについて、PRをさせていただいたり、情報発信をしまして、これからも地域の人材、お手伝いをしていただける方を、どなたでも、活動推進員さんにも、これまで以上にお話をして、ご紹介していただけるような取り組みも引き続き続けてまいりたいと思います。</p> <p>それとですね、令和4年度の開設場所は、一応今のところプレ事業を実施するところまでできましたので、第十小学校、西公民館という形でできるかなというふうには今のところはとらえているところなんです、その次のところはですね、今のところはまだ検討段階で、どこというところはない状態です。やはり学校と地域とそして公民館という形で、今のところは、三野谷は公民館と学校と学童クラブとかそういった地理的条件がよく、事業展開がすごくしやすいかなというところ、三野谷はすぐに決まったような感じなんですけれども、西公民館と十小に関しては、学校さんの方から要望いただいたという経緯もあって、今後はもしそういうような選定基準の中で、例えば三野谷の事例ですとか、西と十小の事例ですとか、そういう</p>
--------	---

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>ようなことがあれば少し協議を進めていければと思いますけれども、今のところ令和5年度以降はここっというようなものは今のところない状況でございます。</p>
<p>猪熊委員</p>	<p>どうでもいいようなことをお聞きして申し訳ないんですけど、子どもたちは、この活動するときに、地域のおじさん、お婆さんの言うことを素直に聞くのでしょうか。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>とってもいい子ばかりというか、きちんと挨拶もしますし、言われたことはきちんとしますし、だからこそ先ほどのスポーツ吹き矢などでも、説明をよく聞いて教えていただいたことをしっかりやったことによって最後はできたっというようなこともありますので、本当に子どもたちは、地域の大人の方たちの言うことを聞いて、よくやっただいてるなっというふうに私も感じているところです。</p>
<p>猪熊委員</p>	<p>ありがとうございます。もしかしたら、コミュニティ・スクールで関わっていらっしゃる大人の方の顔が見えているというところ、学校を通して関わって、節度をもってというのが育っているというところもあるのかなと思います。</p> <p>実は私、自分の子どもを育てているときに、育成会の役員をしていてカルタ大会の練習に出ていったんですけど、全然言うこと聞かなくて、あらって思うことがあったんですね。やっぱり突然知らないおじさん、お婆さんと駄目で、一つステップとしてコミュニティ・スクールで顔合わせができて、学校というシステムの中で、ルールづくりの中で接することができていたというのは、離れてもうまく適用できるんだなというふうに今思いました。ありがとうございました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。では、最後に小野教育長お願いします。</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育長

放課後子ども教室は今年度から始まったので、様々な成果や課題が出てくるのは当然かと思えます。ですので、それを実施しながら、それを精査していただきながら進めていただければと思うのですが、自分は、放課後子ども教室を今後充実させていく上で、将来的な展望に立って見ていくことがすごく大事ななと思っています。

例えば、二つの視点からお話させていただきたいと思うんですけども、一つが地域学校協働活動の充実ということで、もう一つが地域学校協働本部の充実ということ、この二つの視点からちょっと申し上げたいなと思えます。

まず地域学校協働活動とは、地域と学校が連携協働し、幅広い地域住民等の参画により、地域全体で子どもたちの成長を支える多様な活動のことです。今日、話し合われている通りなんですけれども、そこで自分が大事だなと思うのは、放課後子ども教室をこの地域学校協働活動の一部ととらえて一体的に推進していくという発想に立っていることが、これからの将来像を見通したときに非常に重要であると思っています。

今、放課後子ども教室の中では多様な体験活動をやっているんですけども、その主なものとしては、体験プログラム、様々な体験を用意していただいているところです。また、場合によってはスポーツ活動を取り入れているところもあります。学習支援を行っているところもあります。この地域学校協働活動の一部としてとらえるっていう自分の発想は、体験プログラムであれば、例えば、公民館の中の実験工作室を使っている活動であるとか、場合によっては、英会話をやってみるとか、いろんなものをつくり出す文化芸術教室なんていうのがあるかもしれませんが、それが今日、西公民館の方から出てきて非常に興味を持ったのですが、十小地域は工業団地を持っていて、工業団地はあるんだけどそこに何があってどんなものが作られているか知らない、自分の身近にありながらそういうものを知らない、そこをプレとして工業団地に行って子どもた

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

ちがそれを学ぶというのは、まさに地域探検なんだと思うんですね。あるいは地域によっては、やっぱり農業体験とか、本市の学校としては、かなりそういったところではできることかと思うんです。そうした放課後子ども教室のプログラムで実施する体験プログラムを、さらに大人を巻き込んでいくということも自分の中でも考えているんだけど、ふるさと発見学習に発展させていく、例えば、防災学習に拡大してみる、さらには、高度なことになるけれども、地域ブランドづくりにも子どもたちに挑戦させてみる。そうすると、今は単なる体験、体験ということが重視されているんだけど、その体験をつくる、いっぱい並べることが大事ではなくて、例えば、この体験をふるさとっていうものを子どもたちが深く認識して、愛着を持てるような方向に持っていこうとか、あるいは自分の命を地域全体で守るといような、そういった活動に発展させていくとか、そういったところから自分たちの持っている地域の素晴らしさ、他に自慢できることってなんだろうとか、そういうものを大人と一緒に今度考えていけるような段階まで高めていくことが、放課後子ども教室の持っている一つの利点なんだと思っています。

今度学習に視点を当てれば、この放課後子ども教室の中で予習復習をやったり、場合によっては子どもによって補充学習をやったり、最近ですから、タブレットを持っていればICTの、そういったものをやったりすることはできるんですけども、そこで止めてしまうのではなくて、例えばそのプログラムに参加できる子はそれでいいんだけど、実際、親御さんが大変でなかなか面倒見れない実態があるじゃないですか。そういう子たちにこそ本当に手を差し伸べていくように、例えば学習が困難な子どもに対する学習支援活動、例えば地域でやっている地域未来塾みたいな、そういった本当に困っている子にまで地域の力を借りて発展できるようにならないんだろうかと、そういったことを探っていくことがこの放課後子ども教室の出発なんだと思います。

だからこの放課後子ども教室の中で完結するような発想で言ってし

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

まうと、すべて大変な思いをしている人だけが大変なことに関わって行って、地域は育たないと思います。だから、もう少しそういう視点に立って、このまちづくりを考えたときに逆に出発点となるこの放課後子ども教室は、どういうふうそこから発展させていったらいいんだろうかということを考えていくことで、これをやる意味が生まれてくるのかなと思っています。これが一つ目です。

もう一つが、地域学校協働本部の充実ということなんですけれども、具体的には他の委員さんから出ていたように、学習支援や多様なプログラムを実施する上で安全管理を行う、そういった地域住民の人たちの参画が欠かせないということなんですけれども、どうも発想が地域でやっているから地域の人だけっていうのは、私は違うんじゃないかなと思っています。もちろん、それをさっき言ったプログラムに基づいていけば地域づくりになるんだと思うんです。でもそこには地域住民、保護者 PTA だけではなくて、例えば社会教育施設に関わっている人達にも来てもらったり、あるいは文化芸術団体だってたくさんあるわけですし、スポーツ団体だってたくさんあるわけですし、場合によっては企業や NPO だって当然ある。だからこのプログラムを充実させていくために、どういった人たちの力を借りるのが有効かということを考えながらその講師をお願いしていくという発想に立たないと、地域だけの完結っていうのは小さすぎて地域はつくられない。そのところをやっぱり大事にしていてもらいたいなと思います。

だからそのために、共同活動を機能させるために、先進地域などではもう当然やっていることだと思うので、そういった事例研究を十分していただいて、具現化していただきたいなと思っていることと、あと、先ほどから出ているように、コミュニティ・スクールが来年順調にいけば、館林市内全校でスタートになるかなと思っています。そこで私、学校長にこんなことを校長会議で言ったんですね。今までは学校が子どもを育て、地域が地域をつくるっていう発想しかなかったんですけど、これから持続可能な社会のづくり

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

手づくりによって持続可能な社会をつくっていくという発想に立てば、学校と地域が連携協働するということは欠かせない。連携協働すれば何ができるかという、ともに子どもを育て、ともに地域をつくるということが可能になるんだ、そのために、これからの学校は、学校教育を改善、充実させていくことによって、よりよい社会を築いていく発想に立ってくれということを校長に言いました。それがやっぱり大事な発想かなと思って、そうすると、コミュニティ・スクールが始まっていき、そして今、地域学校協働活動を担う地域学校協働活動本部、これが両輪としてやっと動き出していることになるので、自分は公民館長さんなどがいろいろ中心になってやっていただいている今の状況の中ではやっぱり限界があると思っています、地域と学校をうまくつなぎながら、お互いの活動に有益な人材を流していけるような、コーディネートしてくれる人の存在っていうのは、これから地域を本気でつくっていくことを考えたなら、なくてはならない存在なんだと思っています、例えば、一般的には地域学校協働活動の推進なんて言われているわけだけでも、ぜひこれからの館林市の将来、まちづくりということを考えたときに、教育委員会だけでは完結できないので、これは市長部局の方にも、ぜひ市長さんにもお願いしたいと思っていますので、そういったコーディネーターの役を担ってくれる人を、こういったものが始まりましたので、そういった部分で、積極的な支援をお願いできればなと思っています、お願いになってしまいうんですけども、私からの話とさせていただきたいと思います。以上でございます。

市長

ありがとうございました。今、教育長さんからもありましたけれども、やはり大切なのは地域が学校とともにですね、地域が地域の方、子どもたちと一緒に接点をつくりながら、一緒に活動しながら、まちづくり、地域づくりを推進することが重要じゃないかなというふうにとらえましたし、また、そのことを進める上では、地域活動推



令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

進員、コーディネートの役をやっていただける方の育成も今後課題ではないかなというふうに思っています。

いずれにしても、地域の子どもが、地域の人々と一緒になって、地域を活性化するというふうな一つの機会になるのではないかっていうふうに思っていますし、往々にして地域だけにとらえることは、これは限られるわけではありませんけども、やっぱり最初の一步としては、窓口として、地域のおばさん、おじさん方との、最近では面識もないような環境下でありますので、そういうふうな機会にもなっていければなというふうに思っています。そこから地域愛ができ、立派なコーディネート関係でもっと専門的で高度なものを育成しながら、地域のまちづくりにも関わっていけるのではないかなというふうに感じた次第です。教育長さんがおっしゃられたこと等も踏まえまして、今後進めていければというふうに感じた次第であります。この点については、よろしいでしょうか。

(委員より「異議なし」の声あり)

市長

ありがとうございます。そうしましたら、時間の関係もございまして、次の(2)スポーツ少年団活動の現状と課題についてを議題とさせていただきます。こちらにつきまして、協議・調整事項とした理由を教育委員会事務局より説明をお願いいたします。

教育次長

それでは、二つ目の協議・調整事項の理由について説明させていただきます。

本市のスポーツ少年団は、昭和45年に、スポーツを通じた青少年の心と体の健全な育成を図ることを目的に設置され、昨年創立50周年を迎えました。現在は34団体、515名の団員が、スポーツ活動を中心としながら、種目を越えた活動や地域の活動など、積極的に取り組んでいるところでございます。

しかしながら、全国的な傾向であります。本市におきましても少

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>子化の影響によりまして団員数が年々減少傾向となっており、団体の運営や維持が難しくなっているのが現状であります。これからは、ともに活動する子どもたちを増やしていくための取り組みや、組織の自立性を高める取り組みなどが求められていることから、本市におきましても、団体の活動をPRし、スポーツに触れる機会を創出し、また、競技指導者を育成する機会を設けるなど、様々な工夫を行っているところでございます。</p> <p>本日は皆様に、スポーツ少年団活動の現状や課題についてご確認いただいた上で、様々な視点から課題を解決する取り組みについて、ご意見を頂戴し、今後の活動の参考にさせていただければと思ひまして議題とさせていただきました。よろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。次に、関連する資料が用意されておりますので事務局に説明をお願いします。</p>
<p>スポーツ振興課長</p>	<p>(2) スポーツ少年団活動の現状と課題について (別紙資料(2)に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、これよりご質問やご意見をお伺いしたいと思っております。最初に、木戸委員をお願いします。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>団員数が年々減っているといふとこなんですけれども、この団員数が減っているっていうのは、対象となる例えば一年生から六年生までの児童の数に比べて、その割合が減っているのか、それとも人口減少に伴って割合は変わらずに減っているのかっていうのは、その辺はいかがでしょうか。</p>
<p>スポーツ振興課長</p>	<p>この5年間の統計を見ているんですけども、やはりそこはかなり減っているところは大きいものでございます。やはりスポーツをす</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>る機会がなかったり、家の中にいる子が多いというふうに思っています。スポーツ少年団の記録の中で言いますと、やはり何か運動したかったとか、友達と一緒に楽しむことがやりたかったということが、スポーツ少年団への加入動機になっています。なかなか何をしたい、例えば、バレーボールをしたいとか野球をしたいとかサッカーしたくてやるってということではないみたいなので、スポーツをやる機会がなかなか子どもたちに伝わっていないところもあるのかなという気もしています。</p>
木戸委員	<p>ありがとうございます。いろいろ他の習い事ですとか、先ほどの話ですとクラブチームですとか、結構選択肢が多い中で、もしかしたら児童の減少だけではなくてその割合も減ってしまっているのが、こういう現状なのかなというふうに思います。団員の確保というところなんですけれども、今、スポーツバラエティー体験教室を隔年でというふうなところがあると思うんですけれども、これを毎年やっていただくことができるかどうか、というところなんです。当然1回、新しく集めるという目的もそうなんですけれども、1回入った方が、ちょっとあまり向いていないなというところで、選択肢を増やすときに、それが2年後になってしまうと、積極的な方は自分からその団体に行って入っていくことができるんですけれども、そういった機会が隔年ではなく毎年あれば、他の団体に行くきっかけにもなりやすいのかなと思います。</p>
スポーツ振興課長	<p>木戸委員さんのおっしゃる通りだと思います。隔年ですとやはり、なかなかうちの方でも結果がどうなったかっていうのは分からなかった部分もありまして、それに団体の方の意向等もあったのですが、確かに、これから子どもが減っていくことを考えると、機会を与えて団員を確保するということは必要だと思いますので、これから話しながら、前向きに考えたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

木戸委員	ありがとうございました。
市長	では、次に堀口委員お願いします。
堀口委員	<p>先ほど課題の解決のところ、幼少期からスポーツに取り組む機会をつくるというところがあったと思うんですけども、他県のスポーツ少年団などもやはり同じような問題、課題があると思っています。そういった中で、幼児期からスポ少への登録ということを検討しているところもありまして、その辺は指導者に対して幼児期に対する指導をどうしたらいいのかとか、そういう何かレクチャーやセミナーみたいなものを行って、幼少期から、保育園とか幼稚園のところから指導ができるような体制をとっていきたいという意見が結構あったりするんですけども、館林市でも指導者にそういうセミナーの機会を設けたりしていただくと、さらに下の年代から上に上がって行って小学校でいろんな選択肢も増えたりとか、活動ができるのではないかなというふうに思います。</p> <p>あとは個人的なことですけども、私も35年前にスポ少に入っていて、ずっとサッカーをやっていて、今も続いています上山市との交流などがありますが、そういった中で私たちのころはどちらかというと育成会が、男の子は野球をやるような感じだったんですけども、私はずっとサッカーをやっていて、学区外の子どもたちと交流ができて、それが縁で中学校に上がっても同じ部活動で、高校も一緒に、っていうことで今大人になってもその付き合いが続いているっていうのが本当にありがたいなというふうな思いでいます。</p> <p>最初の課題でもそうですけれども、地域を活性化する意味でもスポ少の役割というのは大変重要なことではないかなというふうに思いますので、なるべく団員の確保を一生懸命これからもやっていただければありがたいなという意見です。ありがとうございます。</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>スポーツ振興課長</p>	<p>ご意見ありがとうございます。確かに小学校に上がる前の子どもたちのスポーツの体験は大切だと思います。スポーツを好きになっていただくために、いろんなスポーツをやっていただくという形がごございますので、指導者の方にもですね、幼少期の指導ができるかどうかというのも確認しながら、できるところから始めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>では、次に猪熊委員お願いします。</p>
<p>猪熊委員</p>	<p>二つ質問があります。一つは、子どもたちの団員数が減っているということで団体の運営が大変になってくるというのは、具体的にはどういう面で、金銭的な面なのか人的な面なのか、教えていただけたらというのが一つです。</p> <p>もう一つは、総合型の地域スポーツクラブとの連携というところを出されているんですけども、具体的にどのような連携の仕方があるのか、教えていただきたいと思えます。</p>
<p>スポーツ振興課長</p>	<p>子どもが減ったということで金銭面と人的な面っていうんですかね、子どもたちの活動ということなんですが、両方あると思えます。一応、若干なんですけれども活動費の補助というのは、市から出されているところもあるのですが、やはり金銭面で大会に出られないとか、そっちの方が大きいという形かなと思っております。人的な面も本当に競技の好みもあるものですから、なるべく増やしていくことがまずは大事かなと考えています。</p> <p>それから、総合型地域スポーツクラブの方なのですが、連携はまだまだこれからのこととございます。クラブにはいろいろな指導者がいらっしゃいます。そちらの方も使いながらですね、向こうがやる事業に対して、うちの方が、こういう運動が好きになったならばその次のものがありますよっていうPRをするということもありますし、逆にスポーツ少年団の方に来ていただいて、ちょっと変わった</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>指導などもしていただくというのも一つの手かなと思うので、そういうところで連携していければというふうに考えています。以上です。</p>
猪熊委員	<p>ありがとうございます。体験を通して、いろんなスポーツに親んでもらって自分がやりたいものを見つけられたらというところですが、やっけていてその効果というのは感じられているのですか。</p>
スポーツ振興課長	<p>そうですね、今回スポーツバラエティー教室をずっと見させていただいて、コロナの影響か分かりませんが、今回は76%、いわゆる28人応募があつて、出席率は76%といつもより高くなりました。それぞれの競技を、子どもたちは楽しんでいました。はじめはサッカーとか、野球とかに興味があつたみたいなんですけれども、他のスポーツをやると、これも面白い、あれも面白いという形で、先ほどのなぎなたに入った女の子なども、初めてなぎなたを経験してすごく気に入ったらしく、スポーツ少年団に入ったということがありましたので、本当に見ていて、それぞれ柔道とかも、空手なども楽しんでいるところが見受けられたというのが実際でありました。以上です。</p>
猪熊委員	<p>子どもがやりたいとなったときに、やっぱり家庭の協力はなくてはならないものですよね。そうなったときに、家庭が休みの日に仕事だから出て行けないよとか、送り迎えできないよということで、我慢してしまっている子どもが少なからずいるのかなと思うんですけど、そういう子たちがうまく参加できる方法があると一番うれしいなというふうに思いました。</p> <p>あともう一つは、スポーツの魅力、このスポーツ大好きになつたというのもあるんだけど、何かやっている時のチームの雰囲気とか、教えてくださる先生を感じとか、そういったものもやってみようという気持ちにさせるのに大きいのかなというふうな気がしま</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>スポーツ振興課長</p>	<p>す。上手くチームづくりができていると入ってきてくれるかなと期待ができますので、指導者の育成とか指導とか研修とかが大切になってくるというふうに思いました。以上です。</p> <p>やはり、通うというのはなかなか難しいところはあると思いますし、親の負担というのはあると思います。それで、それぞれの地域にですね、それぞれ近いところいわゆる拠点というか、練習会場がありますので、そういうところをなるべく選んでいただきたいということと、ちょっと子ども1人で来させるのは確かに危険なので、友達と一緒に送り迎えというのがありますので、すぐにできる一つの手立てかなというふうに考えております。</p> <p>あと、チームの雰囲気や指導者のところで、やはり指導者の質というか、いわゆる教える指導力の向上っていうのは確かにあって、やっぱり昔みたいな指導では駄目だっていうのもありますので、指導者研修会とかでお話をさせていただくということと、スポーツ少年団の場合には、コーチになるには研修を受けないとできないということがあります。それで、先ほどのスポーツ少年団の理念といったものをしっかりと教えていただくために、積極的に出ていただくという形がいいかなと思っています。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>では、次に金子委員お願いします。</p>
<p>金子委員</p>	<p>お願いになるんですけども、スポーツ選手がインタビューなどを受けた時に、指導者には技術面だけではなくて、心の中、メンタル面で支えられたっていうことをよくお話していると思うのですが、やっぱり指導者の力ってすごく大きいと思うんですね。団員数一覧表を見ますと、女性の指導者、役員、スタッフさんが少ないなっていう感じがしました。やはり女の子がいる団には、必ず女性スタッフさんが付き添ってくださるような、そんな策を取っていただければと思います。女の子は割と話しづらかったりとか、そういういろ</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>んなところのあれがありますから、相談相手にもなっていただけなのかなってそんなふうに思っていますので、女性スタッフを必ず配置っていうことをお願いしたいなと思いました。以上です。</p>
スポーツ振興課長	<p>確かに女の子には女性スタッフがいた方が、というのはもっともだと思っています。やはり、女性の指導者も幾らかいるんですけども、確かに少ない部分もあります。その他に、役員さん、いわゆるお母さん方がやっぱり役員として入っていますので、そちらの方ともうまく連携をとりながらということと、女性のスタッフ、役員、コーチは必要だということを、団の方にもお話ししながら対応していきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
金子委員	<p>よろしくお願いします。</p>
市長	<p>では、最後に小野教育長からお願いします。</p>
教育長	<p>私もいろんなスポ少の大会の方に出させていただいているので、それぞれの指導者、役員、スタッフの方とお話させていただく機会があるのですが、要するに、幼稚園とか保育園とか幼児を中心とした、例えばサッカースクールなどがあると、それは結構盛況なんだそうです。そしてまた、クラブチーム、これも比較的安泰なんだそうです。何でそれが安泰なのかというと、要するに親が手をかけなくても、それができるという環境がやはりそこにはあるということなんです。だからそのところは、やっぱり一番ネックになっているような気がするんですけども、そういったことを踏まえながら、あえてこんなことやったらどうかなということ、ちょっと自分なりに考えてみたのですが、二つ申し上げます。一つが、幼少期からスポーツに触れる機会をつくるということ。もう一つが、単位スポーツ少年団の運営の充実ということです。</p> <p>一つ目は、事務局の方からも話があったように、広報活動の推進、</p>



令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

目で見える活動の記録展の開催っていうのは、市役所であるとか、ショッピングセンターであるとか、病院や駅の連絡通路などに展示されていて、それを目にすると、本当に子どもたちの活動がよくわかりました。特に、今回はプロになった小川君と岩尾君のそれぞれの団から出た、そういったものもあったりして、一層興味を引くような工夫がされていたなと思っています。あとやはり最近であれば、ホームページや SNS 等を活用した活動の見える化、教育委員会管轄と言いながらも、それぞれの団体の活動になってしまうのでなかなか難しいところもあるんですけども、そんなところで、親の目にもいろいろ子どもたちがこうやって成長しているんだっていう姿が何かで見える、だから目で見える活動の展示展もいいのですが、そこに行かなくても見えるような環境っていうのが今は大事なかなと思いました。

また、スポーツ教室の充実ということは、教育委員の皆様からも出ているのでお願いしたいということと、それからやっぱりプロやプロスポーツに触れる機会の創出っていうのは、子どもにとってすごく大きなものかなと思っています。今回、50周年記念事業の中で、ソフトボールの伊藤良恵さんが来て、そして講演の後に、ステージ上で子どもとキャッチボールする実技があったんですけども、その中で一生懸命サインボールが欲しくて、ずっと言い出せなくて待っていたっていうことがありました。伊藤さんはオリンピックのメダリストでデンソーの監督も努めて、本当に個人としては全日本総合選手権で優秀首位打者やベストナインに、あるいは打点王、こういったものを持っている人なので、本当に憧れの存在なんだと思うんですよね。そういった人との出会っていうのは、とても大きなものだと思うので、実は自分も教員をやっていた頃に、サッカー部を指導していたんですけど、サッカー部の子どもたちが60人ぐらいいるんですけども、その子たちを日本プロサッカーリーグ、Jリーグが1992年にスタートしたのですが、その前年に国立に連れて行く機会が持てて、全員電車で連れて行って、まだ当時は社会人だったん

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

ですけれども、その試合を見せると、子どもたちのそれからの目の輝きが全く変わりました。

やっぱりそうした、本市出身でもいろいろとプロの方も出ていらっしゃるんで、そういった方々によるスポーツ教室などが1回でも開催されるといいきっかけになるかなと思っているのと、もう一つは、プロスポーツの観戦、本市のハコモノなどを見ると、なかなかプロスポーツは開催できない条件になっているようなんですけれども、例えば、スポ少に入っている子たちがどこかで行く観戦ツアーか何か、バスか何かで連れて行く機会が生まれてくるのであれば、例えばバスケットを太田市でやっているじゃないですか、そんなところに子どもたちを招待できるような機会を作っていただいて、本物に触れる、そうすると、やはり市の総合体育祭でプラカードを持って歩くとかそんなことではなくて、自分がもう大好きで、その競技に加わっている中で、こういうすごい人に会えるっていう機会を、いくつかあるチームが本当に何年かのローテーションでもいいと思うんですけれども、何かそういうようなものができる、スポ少に入ってよかったなっていう思いができると思っています。

そしてもう一つ、二つ目が単位スポーツ少年団の運営の充実なんですけれども、指導スタッフについては課長の方からいろいろ話があって今日も行われるということで、とてもありがたいことなんです。育成母集団、そこに関わる保護者や地域住民の組織の育成っていうことが大事かなと思っています。例えば、何でそんなこと言っているかという、親が子どもにどんな言葉をかけているかとか、他の親とどんなふうに関わっているかとか、親の育て方や考え方で子どものマインドが変わって伸びしろに差が出てくるんですね。そういったことを考えたときに、親が指導者に全部任せてしまうのではなくて、やっぱりその経営に参画していく、そういったことが大事ではないかなと思っています。そして、どうしたら経営に参画したくなるのかということ考えたときに、やはり子どもというのは、例えばスポーツを通して目標に向かって努力する尊さを割と短時間

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

で学ぶことができる競技、また試合をすれば、勝って喜んだり、負けて涙したりする経験を積むことは、本当に感受性豊かな子どもたちにとって欠くことのできない貴重な体験と成長の場になっていると思うんですね。そうしたときに、スポーツを通して、子どもにその団が何を育てたいのかっていうことを共有していくことによって共感する親が出てくれば、経営に参加してくれるようになるのではないかと思っていて、ただ競技ということだけではなく、それを超えた一つの子どもの姿、それを一緒に、その団が親と一緒に作りたいんだっていう思いを共有できれば、少し親自身が変わってくれるのかな、送り迎えが大変なのは当然のことだけれども、でも自分が関わることで子育てっていう部分で、子どもが自分の子やそこに関わっている子が成長していく、そこに喜びを見出していく場面が生まれてくれば、少しでも、大勢が変わってくるのかなと思って、他の団体のことなのでなかなか言いにくいところもあるのですが、そんなことができたらいいなと思っていることと、あともう一つが、保護者や地域住民によってスポーツを中心とした活動を支援してそこに子どもを巻き込んでいく、例えば、保護者や地域の人たちが一緒になって、例えばスポーツフェスティバルみたいなものを開催して、親のチームと子どものチームが一緒になって、そこで汗を流す時間が1年に1回でも持てる、そういったところに地域の子どもが来て、自分もやってみたいなって思ってくれるのであれば、子どもたちがスポーツに関わるきっかけができるのかなと、ちょっと自分なりに考えてみました。それが多分、スポーツ少年団の理念の三つ目にあがっていた、スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献するということにも生きてくるかなと思います。

また、一つ目の話題で出た放課後子ども教室の中でのスポーツ活動なども、その子どもたちがやっていくところにスポ少の指導者なんか来てくれて、面白いなと思ってくれたらスポ少にまた流れていくという流れなども今度出てくると、今日いろいろ話し合ってきたことがまた一つにつながっていくのかなと思っています。

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>すいません、ちょっとまとまりのない話になってしまいましたが、以上になります。</p>
市長	<p>ありがとうございました。他に何かございますか。</p> <p>(委員より「ありません」の声あり)</p>
市長	<p>ないようですので、いろいろと教育委員の方のご意見、また教育長のご意見等をいただきました。やはり大切なのは、スポーツ少年団活動の理念にもございますけれども、スポーツの歓びを提供しながら、心と体を育てて、そして地域づくりに貢献するとういうふうなことでありますが、子どもたちやその活動が年々減少しているのも事実でございます。</p> <p>そういったことを幼年期から参加してもらい、また、プロのものをを見ていただきながら、よりよい行動のものを望んでいただいて、それを深めていただく。そしてやはり今後の課題としては、運営スタッフ、やはり参加しているといろいろ大変なんですよ。そういうようなことも課題ではないかなというふうに思っていますけれども、そういったことをですね、現状と課題を確認しながら、また改善しながら進めることが重要ではないかというふうに感じた次第でございます。</p>
市長	<p>いずれにしても、本日皆さんからのご協力を受けまして無事すべての議題を協議させていただいたというふうに思っております。今後ともですね、協議させていただいたことにつきましては、教育委員会と市長がお互いを尊重し合いながら、協力し合っていくことも重要ではないかなというふうに思います。</p> <p>そして、教育はよく国家100年の計、こういうふうに言われておりますので、我々世代からですね、次の世代、そして次の世代へとそれを引き継ぐ、こういうふうなことが重要な取り組みではないかな</p>

令和3年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>というふうに思っています。それがひいては10年後20年後の地域づくり、まちづくり、館林市の活力にもつながるのではないかなというふうに感じた次第でございます。</p>
市長	<p>以上となりますが、本日はどうもありがとうございました。これをもちまして議長の任を解かせていただきたいと思います。</p>
教育総務課長	<p>長時間にわたりまして大変ありがとうございました。次第の4にその他とございます。お時間も残りわずかでございますが、何かこの場でお話ししておきたいことがある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
	<p>(委員等より「ありません」の声あり)</p>
教育総務課長	<p>それでは、以上をもちまして、総合教育会議の全日程を終了いたします。大変お疲れ様でした。</p> <p>(午後4時45分)</p>